

腫瘍内科学

M-04-26-L

オーガナイザー

内科学第3講座・腫瘍センター 病院教授 清水 俊雄

I 授業の目的

本邦死因のトップである悪性腫瘍の疫学・概念と発生分子学的機序を理解し「腫瘍内科学」の基盤であるがん薬物療法の基本理論および効果・副作用等を学習するとともに、悪性腫瘍に対する薬物療法に関して国内外の最新知識やがんゲノム医療、がん新薬開発の仕組みを含めて理解する。

II 到達目標

- 1.腫瘍内科学および腫瘍内科医（Medical Oncologist）の役割に関して理解する。
- 2.がん遺伝子、がん抑制遺伝子を説明できる。
- 3.シグナル伝達系や細胞周期に関する基本事項を説明できる。
- 4.悪性腫瘍の転移・浸潤・播種等の進展機序を説明できる。
- 5.悪性腫瘍に対する薬物療法の目的・役割を説明できる。
- 6.抗悪性腫瘍薬（殺細胞性抗がん剤）の作用機序と副作用を説明できる。
- 7.分子標的治療薬の作用機序と副作用を説明できる。
- 8.がん免疫チェックポイント阻害薬の作用機序と副作用を説明できる。
- 9.がん薬物療法の効果判定法および有害事象評価基準等を説明できる。
- 10.がん薬物療法における多職種チーム医療の重要性を述べることができる。
- 11.がんゲノム医療および精密化医療・個別化医療について述べることができる。
- 12.がん新薬開発の仕組みや、治験（新薬開発）・臨床試験に関して述べることができる。

III 教育内容及び講義日程表

NO.	月 日	曜日	時限	項目	担当
1	R6. 8.30	(金)	5	腫瘍内科学総論	清水俊雄
2	R6. 9. 6	(金)	5	腫瘍内科学各論（がん薬物療法各論・ がん新薬開発・がんゲノム医療）	清水俊雄

教育方法：講義形式で行う。

IV 評価の方法

各講義時間内に実施する筆記試験により評価する。

V 推薦参考書

日本臨床腫瘍学会編：入門腫瘍内科学 改訂第3版

日本臨床腫瘍学会編：新臨床腫瘍学 改訂第6版

